

会 議 録

会 議 の 名 称		平成 27 年度 第 1 回豊中市市有施設有効活用委員会		
開 催 日 時		平成 2 8 年（ 2 0 1 6 年） 2 月 8 日（月） 1 5 時 0 0 分～ 1 7 時 0 0 分		
開 催 場 所		豊中市役所第二庁舎 3 階 大会議室	公 開 の 可 否	☒ ・不可・一部不可
事 務 局		資産活用部 施設活用課	傍 聴 者 数	1 人
公開しなかった理由				
出席者	委 員	○市有施設有効活用委員会委員 5 名 伊丹康二委員・佐野こずえ委員・新藤晴臣委員・吉田寛子委員・吉野忠男委員 （五十音順）		
	事 務 局	○資産活用部 福田部長・林田理事・藤家課長・池上主幹・牛尾補佐 大西主査・中川主査・芦田・田中		
	そ の 他			
議 題		1. 委員長の選出について 2. 委員長職務代理者の指名について 3. 諮問「特定施設候補の選定について」 4. その他		
審議等の概要 (主な発言要旨)		別紙のとおり		

審議等の概要（主な発言要旨）

発言者	内容
< 1. 委員長の選出について >	
－	（豊中市市有施設有効活用委員会規則 第 5 条第 2 項の規定に基づき、委員の互選で吉野忠男委員を委員長に選出）
委員長	（委員長選出にあたって） これまでの市有施設有効活用委員会の議論をベースに、より具体的かつ実践的な部分を議論していく必要があるということ、また、2 月号広報でも特集記事が組まれたように、市民の方々の関心も高まりつつあるということを感じている。そういった期待に応えられるよう、議論をしていきたい。
< 2. 委員長職務代理者の指名について >	
－	（豊中市市有施設有効活用委員会規則 第 5 条第 4 項の規定に基づき、吉野委員長が伊丹康二委員を委員長職務代理者に指名）
委員	（委員長職務代理者選出にあたって） これまでの議論の内容も踏襲しながら進めていきたい。
< 3. 諮問「特定施設候補の選定について」 >	
事務局	（資料に基づき説明）
委員	資料 3 の③の段階である、ソフト面での特定施設候補検討施設抽出の方法について、利用者数を指標としているが、例えば利用者 1 人あたりの施設維持管理コストがどの程度かという点も考慮してはどうか。指標が増えすぎることの弊害もあるが、1 人あたりの施設維持管理コストという指標は行政経営としてもシンプルで分かりやすいと思われる。
委員長	事務局提案のあった、年間利用者数と㎡あたり年間利用者数という指標だけでは、項目としては少ない印象もある。
委員	年間利用者数だけでは、利用圏域の大きな全市レベルでの施設と、例えば小学校区単位のような利用圏域の小さな施設を比較することになるため、利用圏域の小さな施設が抽出されがちである。
事務局	建物の維持管理にかかる経費として、光熱水費や総合管理委託料等の合計値は、全施設で把握しているので、ご提案頂いた数字を算出してみたい。
委員長	他の委員からも意見があったように、指標が増えすぎても議論が難しくなるが、事務局提案の 2 つでは不足があるように思える。利用者 1 人あたりのコストに関するデータについても用意してもらいたい。

発言者	内容
委員	特定施設候補検討施設を抽出したあとの、委員会における選定を検討する中での論点となるかもしれないが、非常時に利用する施設や機能の位置づけについても留意する必要がある。
事務局	年間利用者数が少ない施設であっても、災害時に避難するという機能を担っているケースがあり、その点も考慮に入れた議論が必要と思われる。
委員長	特定施設候補検討施設として挙がっている施設の中にも、例えば避難所指定されている施設が多く含まれているのか。
事務局	避難所指定されている施設も多く、また、指定が無い場合でも、公共施設ということで、災害時の避難を想定しているケースもある。避難所指定の有無に関わらず、近隣に公共施設があるかどうかという面も含めて、見ていく必要があると思われる。
委員	特定施設候補検討施設の一覧は資料4に挙がっているが、例えば多くの施設が抽出された共同利用施設について、抽出されなかった施設の状況がどういった状況であるのかもデータを示してもらいたい。施設分類によっては、先ほど他の委員からも意見があったように、ほかの指標での検討ということも必要になると思われる。
事務局	例えば共同利用施設であれば、34施設のうち29施設が現在検討候補として抽出されており、残りは5施設であるが、築年数・利用者数ともに基準に近い値であり、大まかに言えば全施設が検討候補になってもおかしくない状況である。
委員長	施設の統廃合を考える上で、いまその施設で担っている機能をどうするか、その施設の利用者の代替をどうするかが重要であり、民間で類似機能を有する施設があるのかも視野に入れながら検討する必要がある。今後の検討の中で、例えばスポーツ施設であれば、類似施設がどこにあるのかといった状況も提示してもらいたい。
委員	共同利用施設を利用しようとしたことがあるが、古くからの利用者が優先されたり、逆に利用の方法が周知されていないなどの問題で、利用者が少なくなっているということも言える。利用者数の裏側に、施設を「利用したいが利用できない」人数というものもあるのではないかと。ニーズと運用等がマッチすれば、利用者は増えると思われる。個人的には、知り合いを通じてようやく利用出来たケースもあった。今利用している人にとっては、施設の利用者が増えていままでのペースで使えなくなるといった懸念もあり、情報をオープンにしていくことに消極的なのではないか。一方で、居場所を探している子育て世代層等もいて、そういった人の利用も促せば、利用状況は高まると思われる。

発言者	内容
委員長	曜日と時間帯で常連の利用者が固定化されていたり、施設の空き状況がオープンにされていないという問題がある。利用者数は運用方法次第で増える可能性がある。そういった情報をどのようにして拾い上げるかが難しい。実態や課題を顕在化させていく必要がある。
委員	校区単位で利用の可否が決まっているケースもあったり、或いは、例えば寺内地区の人は吹田市方面の方がアクセス面で良かったりすることもある。利用者が利用しやすいような柔軟性があっても良いのではないか。
委員長	今の議論は、まさにソフト面を見ていく上で重要なところである。情報の収集や整理は難しい面もあるが、今後会議の場でも情報として提示してもらえればと思う。
委員	集会機能については、他の委員と研究をしてきた経緯がある。豊中市には地区会館・共同利用施設・老人憩の家など、様々な集会機能をもった施設があるが、住民にアンケート調査を行ったところ、活動資金などよりも活動する場所に対するニーズが高い結果になった。個人的には、これだけ集会施設があるのにそのような結果になったことが驚きであった。おそらく施設の認知度や、広さなど、スペック面での問題があると思われる。見かけの施設はたくさんあるが、市民ニーズに対応できていないと考えている。そのうえで、今回例えば共同利用施設でも特定施設候補検討施設に挙げている施設と挙げていない施設があるが、すべての共同利用施設を含めた集会機能のあり方自体について議論し、提案をしていくという方向で進めるのが良いと思われる。
委員	他市では、コミュニティ施設は地元は無償譲渡していくという時代の流れがある。しかし、豊中市では、自治会の空白地域があることや、自治会加入率の低下などの問題もあるため、単純に集会施設を自治会に無償譲渡するといったことを進めるのは難しい。行政サイドで自治会間の調整等もできれば、解決の筋道がたてられるかもしれない。また、施設を地元に移譲する場合は、譲渡直後は良いが、その後大規模の修繕等が必要になった際に自治会では対応できない可能性もある。
委員	利用者数を集計していない施設のソフト面をどう評価するかについて、例えばこども園であれば、待機児童数の動向なども参考にできると思われる。ニーズも地域で差があるはずである。
委員長	事業の全体については、最終的には各所管で検討してもらう内容ではあるが、その判断の参考として委員会で意見を出していくこともできるはずである。

発言者	内容
委員	特定施設候補検討施設の中に消防庁舎が入っているが、消防に関しては防災の観点で計画的に配置をされている側面もあると思われる、この委員会で議論するテーマとして相応しいのかどうかは疑問もある。
委員長	消防庁舎と言っても、詰所機能を中心としながら、啓発活動等を行っている施設もある。そういった部分については、議論の対象になり得るのではないかと。ただ、議論の中でテーマや対象の絞り込みも必要なので、委員会としては、その絞り込む過程の理論等もしっかり説明できるようにしたい。
委員長	施設を利用している人の視線を少し変えてもらう、その考え方の提案をするのが委員会の役割である。一方的に特定の施設は廃止、といった論調の議論ではなく、新しい利用方法を提案する、そういった意見を出していきたい。
委員	ハード面の論点として、耐震性能が挙げられているが、ほかの災害としては、例えば水害といったことも考えられる。ハザードマップと照らし合わせ、どのエリアにどういった施設が必要かということを検討していくことも必要である。市としても、以前は地価への影響から、ハザードマップなど、防災や危機管理に関する情報の公表に慎重だったこともあったが、現在は人命の安全性等を優先し、情報発信している。
事務局	豊中市で起こり得る災害としては、地震・豪雨による水害・津波による浸水が考えられる。設備面でそういった起こり得る災害のリスク管理ができていないものもあり、課題と考えている。また、耐震化については、原則全施設で耐震改修を行う予定で進めている。
委員	各施設の機能について、現時点の特定施設候補検討施設の一覧では簡素化して書かれているが、もう少し具体的な議論を進める上では、詳細の機能についても見ていきたい。
委員	機能の表示という意味で言えば、資料 5 で示している地図への情報の落とし込みもできれば分かりやすいので、今後の議論で検討してほしい。
委員長	現時点で 80 以上の特定施設候補検討施設が挙げられているが、さらにそこから絞り込んでいく過程に議論の時間を費やすよりは、既に候補の絞り込み方については、ある程度論点が整理されているので、さらにいくつかのテーマを挙げてもらい、それらについて委員会で議論していくという流れでも良いのではないかと。次回の委員会で、ある程度特定施設候補の目星をつけておくくらいのスケジュール感で進めてはどうか。

発言者	内容
委員	特定施設候補のリストを作ることに重きを置くのか、挙げた特定施設候補の論点や方策を考えることに重きを置くのかで、進め方が異なってくる。一つ一つの事例に対しても様々な論点が考えられるので、多角的に見ていくためには、ある程度早い段階で特定施設候補の絞り込みをしておく必要があると思われる。
事務局	本日リストアップしている施設は、機械的に出しているものという課題も踏まえて敢えて提示しているものであり、こども園や消防庁舎など、委員会で議論すべきかどうかという施設も含まれていると考えている。
委員長	本日出た意見を踏まえ、もう少し絞り込みが出来るのではないか。絞り込んだうえで、各施設・テーマについてより深い議論をしていければどうかと考える。
委員長	定性的な部分の情報をどう把握していくのかも課題である。先に他の委員から意見のあった利用実態等を、個人の意見ではなく、一般論として整理出来れば何らかの評価ができると思われる。
委員	例えば共同利用施設の話でも少し問題として挙げたが、利用方法に関する周知状況等も一つの論点になるのではないか。
委員長	集会施設の利用状況について、もう少し詳細のデータは出せるのか。
事務局	共同利用施設については詳細なデータがある一方、地区会館については把握できていない。ただし、コミュニティ施設についてどうしていくのかという議論も、所管課も含めて進めていこうとしており、その一環で出てきた内容やデータをこの委員会でも報告できれば、より良い議論になるのではないかと考えている。
委員	とよなか起業・チャレンジセンターが特定施設候補検討施設に挙げられている。この施設は、基本的には起業家等を中心とした事業関係者を対象としているので、利用者は少ないが、見方を変えれば、その事業者からのサービスを受けた人の数ということも考えれば、一概に利用者数だけで評価できない施設ではないか。ただ一方で課題もあり、例えばこの施設は元々公民館であったこともあり、グランドピアノの設置されているホールがある。こういった施設は貴重であるが、施設の利用対象が基本は事業者であるため、個人や市民団体等の利用も断っている現状があると聞いている。個人まで可とすると際限が無くなる懸念もあるが、公益活動等の目的であれば、使用条件を緩和しても良いのではないかと思う。既存の利用方法や制限に縛られることなく、新しい利用方法を考えていければ良いのではないか。

発言者	内容
委員長	そういったケースは非常に多いが、背景として、その施設や事業が補助金を受けているために、利用方法が限定されてしまっているケースがある。本来であれば、自治体が独自の判断で利用方法を柔軟に対応できるようになることが望ましいので、そういった問題提起もしていきたい。
事務局	公共施設等総合管理計画の策定に向けた準備の取組みの一環として、各施設の利用状況に関する課題、例えば特定の時間帯において利用が少ないといった情報についても把握しているので、今後情報提供していきたい。
< 4. その他 >	
事務局	次回委員会については別途日程調整をさせて頂く。